

別紙

『請聘状の概要』

主旨) 貴国明治天皇時代、北白川宮能久親王殿下が引率する近衛師団所属の日本兵遺骨100余柱を南投県草屯鎮山丘地から引接して宝覺寺に暫時奉安しています。この慰霊法要の支援のため、両和尚を請聘いたします。

- 本宝覺寺は、太平洋戦争終結後、台湾各地に散落する日本人遺骨1万4千柱を収集して「日本人遺骨安置所」を建て法要しております。本寺信徒の楊子榮氏から遠山・山田両和尚が「和平大仏」を長崎県大村市に建て、海外に眠る日本人遺骨の奉安供養と世界平和を祈願する計画を進めていることを聞きました。
- 日清戦争で貴国に割譲された台湾に近衛師団が派遣されてきた。当時、南投県と彰化県の交界一帯は山丘、荒谷、雑木・森林が密茂なところゆえ、貴国の統治に反対する私たちの同胞が暗闇に乗じた抗日戦を繰り広げた人達が隠匿する絶好の場所でありました。
- 討伐に向かった日本兵に時々夜襲をかけていましたが、その際戦死した日本兵の屍体を放置したままにして発覚すると付近山地の村民が日本軍に殺戮されるおそれがあると考え、屍体をこの付近の雑木林・密林・溪谷地帯に運び埋めて隠匿しました。
- 付近に居住する年輩・老農夫は皆このことを知っていて、この場所を「日本兵窟」と呼んでおります。これらの慰霊が80多年、一度も弔われず忘れ去られてきたことを思うと、悲惨極まり悲痛の情忍びがいものがあります。
このたび、本寺は一大因縁をもって半年前からこれらの遺骨収集に着手し、現在70柱を収集し、残りは40柱余りとなっております。
- 古来、我が国では、亡霊を畏敬し御霊を厚く葬る優美な伝統習俗があるため、日本軍の遺骨を宝覺寺に引接して暫時奉安しておりますが、日本軍人の遺骨であるため、日本籍の高僧に引魂迎導していただくことが必要と考え、請聘状を上申した次第です。本寺で執り行う引魂迎霊の挙式に仏光普照が行き渡りますように。

民国70年6月25日

日本長崎県妙寿寺住持 遠山海光法師 殿
日本長崎県本蓮寺住持 山田完修法師 殿

発信者 台湾省台中市 宝覺寺住職 陳金鑾 
合掌